

1 交流ラウンジ、壁面展示スペース

南側にラウンジのような自由な滞在ができるスペースを設けます。さらに、交流ラウンジからホールの周囲を回遊できるよう、ひとつながりの壁面を展示スペースとしました。中心部ではさまざまな活動が行われながら、壁面の展示が共存できます。区の取り組みを紹介する企画展示や、区民の活動の発表の場など、幅広い用途で活用できます。

2 スペース A・B・C

工作、語学講座、会議など、少人数の活動を支える小割のスペースを3つ設けます。活動の規模に応じて、スペースを組合せて使うこともできます。

3 展望・休憩スペース

駅前広場への眺望が開ける窓際のスペースは、日常時、ホール利用時アクセス可能なベンチを設けた休憩スペースを設けます。

4 ホール

地域のイベントや商業催事、展示にあわせたトークイベントなどができる場所です。ふだんは、駅前広場を眺めながら休める“居場所”としても使えます。

5 アーカイブ室

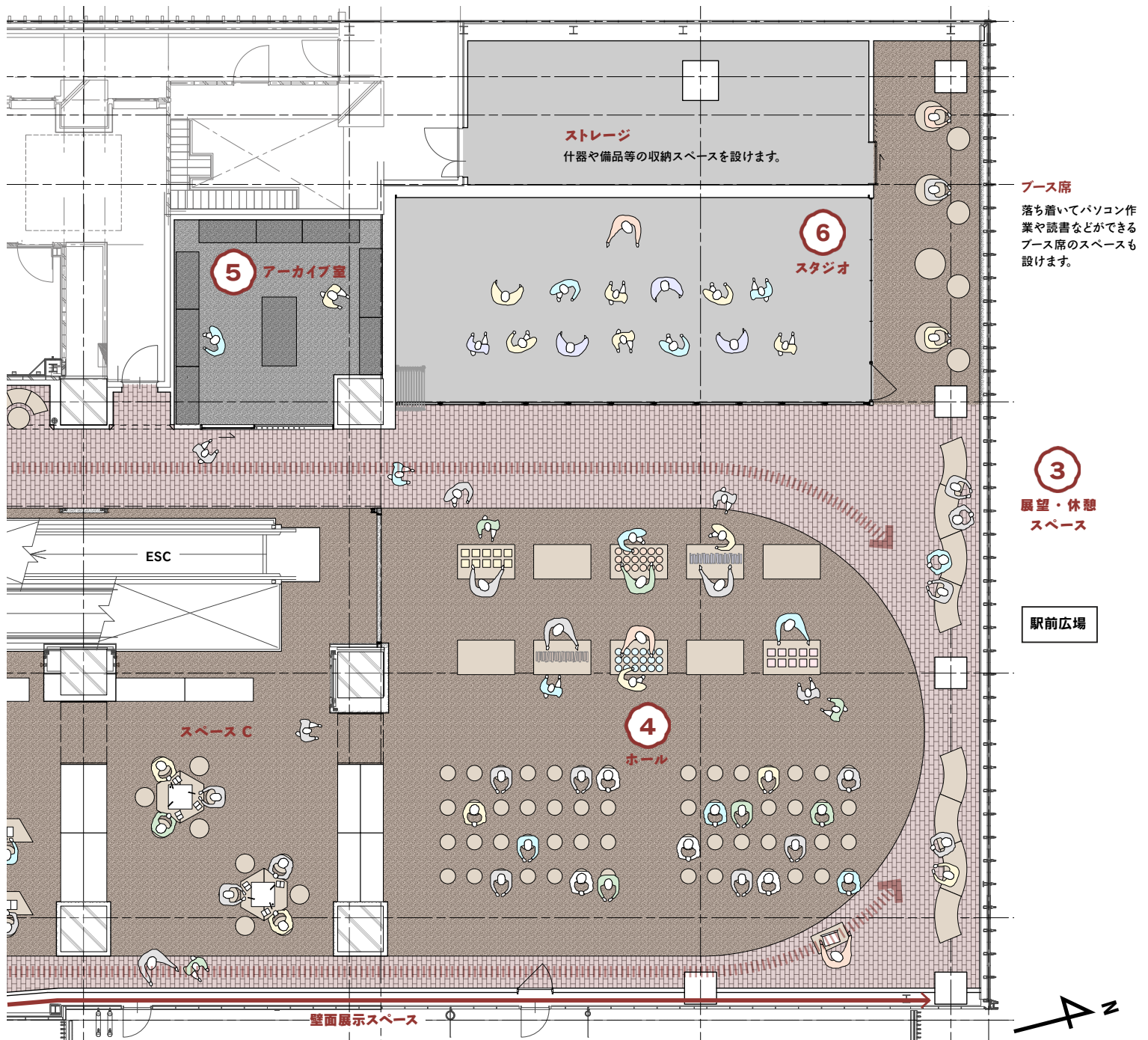
区民のみなさんの活動で生まれた制作物などを、一定期間見せながら保管できるアーカイブ室を設けます。壁面展示だけではなく、アーカイブ室を使った小規模な展示企画を行うこともできます。

6 スタジオ

ダンスなど音が出る活動にも使えるスタジオを設けます。

7 (仮) 家庭科室

書道教室など、水場が必要になる地域活動もできるように、(仮)家庭科室を設けます。最小限のキッチン設備を設置することで、ホール等での日常・イベント時の軽飲食の給仕等にも使えるようにします。



ゆったりと過ごし、活動できる日常と、 さまざまな使い方にも対応するホール

エスカレーターやエレベーターで4階へ上がり、公益施設のエントランスを入ると、スペースA・B・Cや交流ラウンジで活動する人たちの姿が目に入ります。エスカレーター横には少人数で落ち着けるソファ席を、北側のスタジオ奥には一人でも使いやすいブース席を設け、さまざまな世代の方が滞在しやすい空間を目指しました。目的がはっきりしない時でも、誰もが気軽に立ち寄り、過ごしやすい施設となることを目指しています。また、北側のホールは、普段は駅前広場を眺めながら思い思いに過ごせる場所として、イベント時には活動に合わせて多様に使える空間として活用できます。



図9 | 公益施設エントランスから見た全景

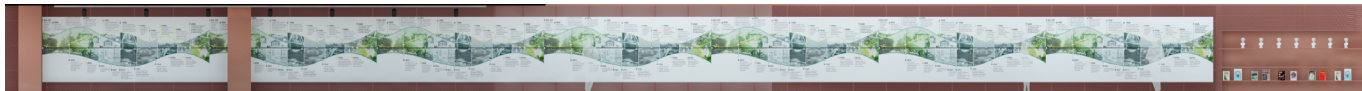


図10 | 約40メートルに渡る展示壁面の展示イメージ

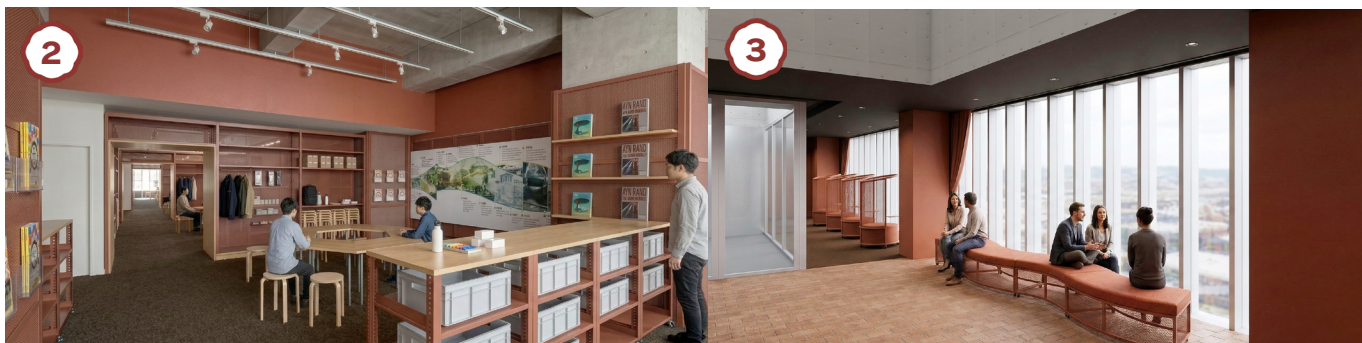


図11 | スペースA・B・Cの利用イメージ

図12 | 北側には休憩スペースと奥にテーブル席を設ける

使いながら、 育てていく施設のデザイン

この施設は、使いながら徐々に手を加え、育てていくことも大切にしています。そのため、壁面にはパンチングメタルを採用し、フックや棚板、サインなどを、使い方に応じてその都度取り付けられるようにしました。活動やイベントに合わせて少しずつ要素を加えながら、市民のみなさんと一緒に、施設を段階的にアップデートしていくことを想定しています。



図13 | パンチングメタル壁面に棚やフックを付ける仕組み



図 14 | 上：ホールの利用イメージ1（音楽イベント） 図 9 | 下：ホールの利用イメージ2（レクチャーイベント・展示イベント）

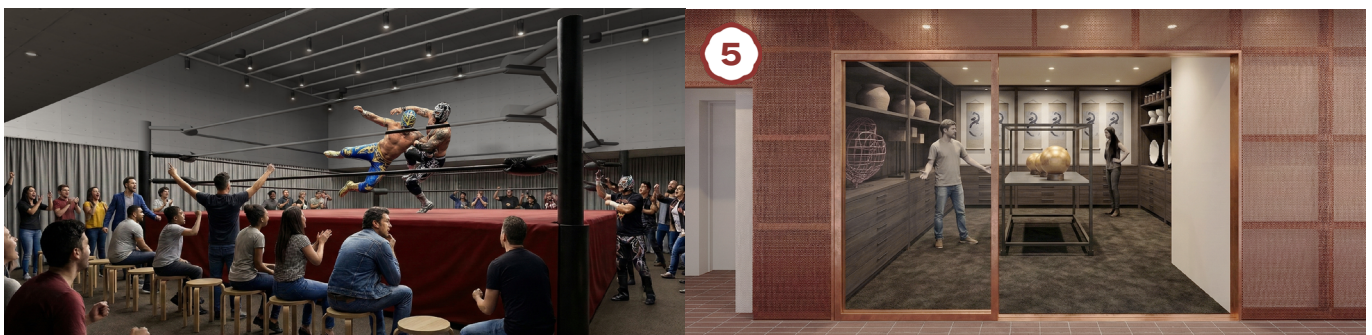


図 15 | ホールの利用イメージ3（スポーツイベント）

図 16 | アーカイブ室の利用イメージ



図 17 | スタジオの利用イメージ

図 18 | （仮称）家庭科室と交流ラウンジ

運営スキーム

板橋の玄関口の3施設を一体運営し、区のブランド発信拠点に

板橋区の南部に位置し都心に近い板橋駅は、旧中山道エリアやその先の加賀地域へとつながる、板橋の「玄関口」となる場所です。山手線に次ぐ乗車数（約68万人/日）を有するJR埼京線の車窓からは、みどり豊かな風景も見え、区のブランド発信拠点として、大きな可能性を持っています。

板橋区では、駅前に隣接する新しい公益エリア、リニューアルされる西口駅前広場、既存のハイレイフプラザという、性格の異なる3つの公共施設を一体的に運営していきます。3施設をひとつのまとまりとして捉えることで、区のブランド発信拠点としての発信力を高めるとともに、日常利用から大規模イベントまで、幅広い使い方に対応できる体制を整えます。

あわせて、メンテナンスや運営の集約化、一部業務の区直営化も視野に入れながら検討を進め、コスト削減とサービスの質の向上を目指します。

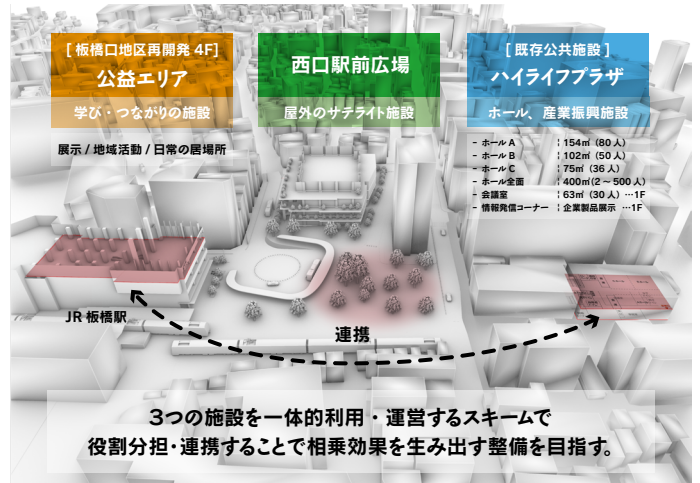


図19 | 板橋口地区再開発4階公益エリア、西口駅前広場
既存のハイレイフプラザの3つを一体的に運用する

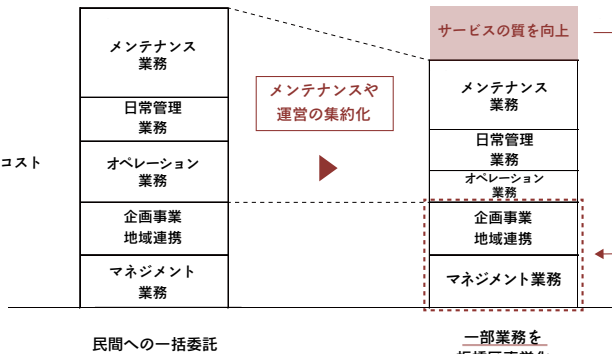


図20 | 業務の直営化などによるコスト削減とサービス向上を目指す



図21 | 公益エリアと駅前広場が連携し、
可動式家具などを移動させてイベントにも対応する



図22 | 埼京線からは公益エリアや駅前広場で行われるさまざまな活動ごとが見渡せる

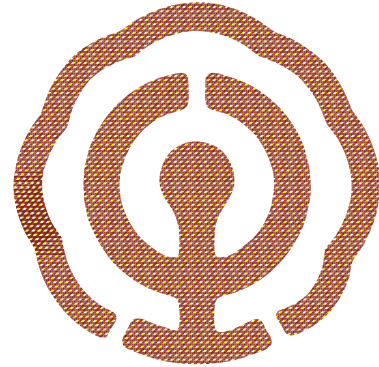
ネーミング、ロゴデザイン

新しい板橋の玄関口のネーミング「えんのもり」

新しい商業施設4階につくられる公益エリア、リニューアルされる西口駅前広場、既存施設のハイライブラザの3つを一体とした場所のネーミングを「えんのもり」としました。

人々が出会う宿場町としての歴史、縁^{えん}がつながり新しいものに
出会う学びの場、社^{もり}のようなみどりいっぱいの空間、エリアマ
ネジメントによる地域の活動ごとの見守り、といったエリア全体
の運用イメージをひとつのネーミングに込めました。

ロゴマークは、年輪や円^{えん}を感じさせるやわらかなデザイン。
色は、さまざまなものが混ざり合う駅前広場のように、いく
つものラインが交差して混ざりながら色を発色します。



えんのもり
en no mori

創造都市の中心的拠点

クリエイティブセンターとして

板橋区は、2026年1月に区民一人ひとりの創意を原動力とし、あたたかでやさしいつながりを創り出す「創造都市 (Creative City)」であることを宣言しました。印刷・製本産業の集積と、ポーニヤとの40年の交流が育てた絵本文化を土台に、「デザイン=潜在的な価値を誰もが理解し活用するための知恵」という独自の定義のもと、まちづくりのさまざまな領域でデザインの取組を実践してきた都市として、ユネスコ創造都市のデザイン分野での加盟を目指しています。

えんのもり・公益エリアはこの中心的拠点 (クリエイティブセンター) として、“板橋区の創造都市としての実践を世界と共有し、深化させる役割”を担っていきます。



図24 | 展開イメージ(グッズなど)

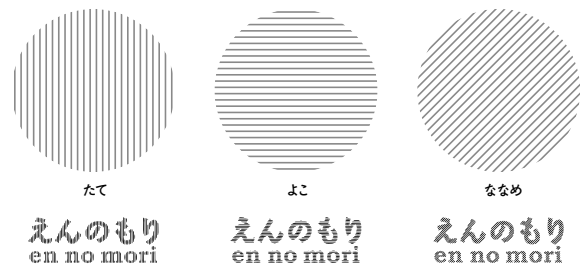


図23 | ロゴの考え方

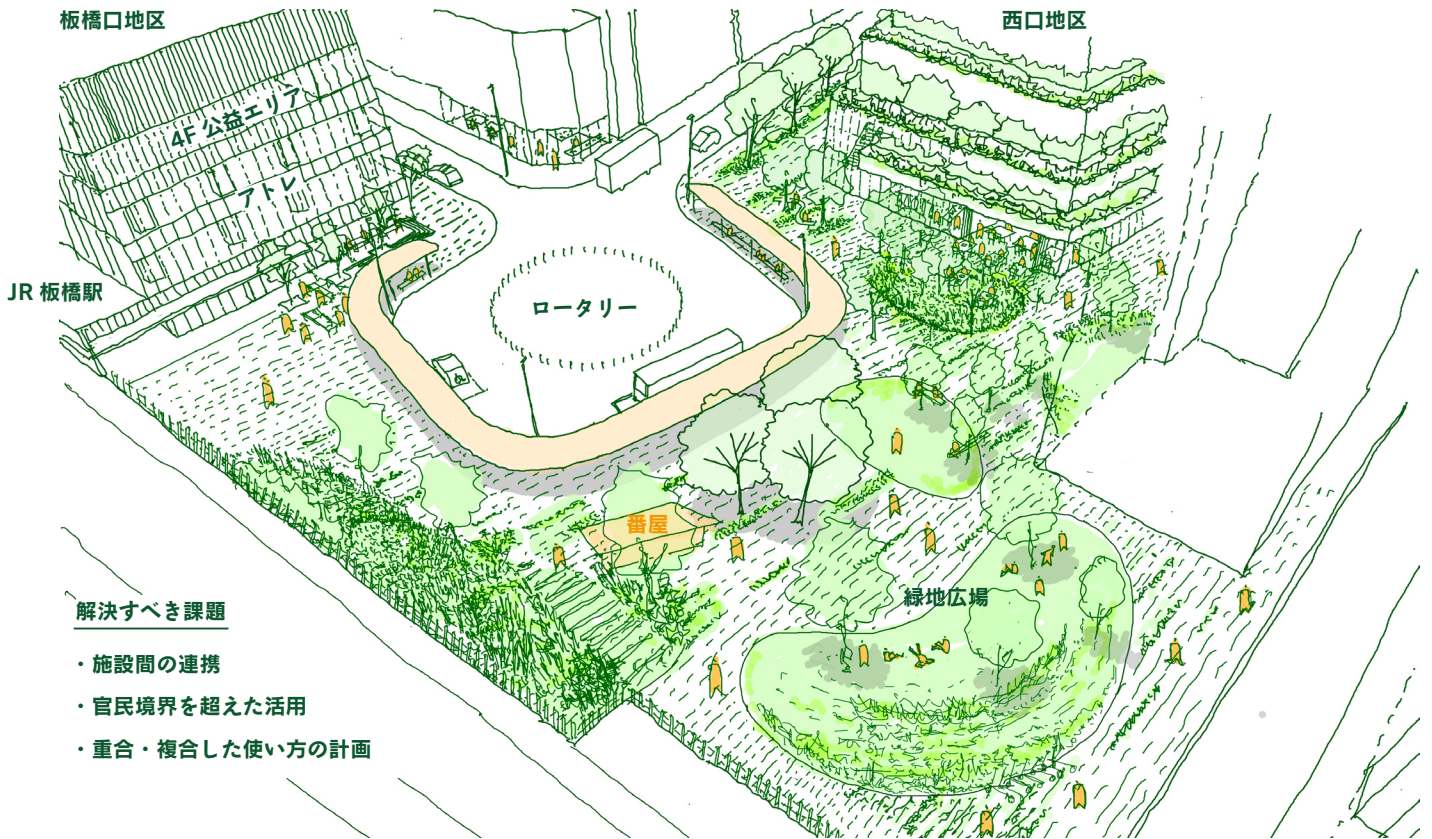
たて / よこ / ななめの線が混ざり合い1つの文字になる。



図25 | 展開イメージ(サイン、イベントの法被など)

輪っかを共通の要素とした、バリエーションあるデザイン。柔軟な運用で、まちと連携するきっかけをつくります。

各事業者が「まち」のためにできること 施設と広場の境界をこえた心地良い駅前広場を



解決すべき課題

- ・ 施設間の連携
- ・ 官民境界を超えた活用
- ・ 重合・複合した使い方の計画

図 26 | 再開発商業施設と連携した公益エリアと駅前広場

駅前広場とその周囲の再開発事業で建てられるビルは、デザインを揃えることはできても、ビルの前に広がる広場をどう活用するかという具体的なイメージが完成後に議論されるため、アクティブな活用につながらないことが多いのが現実でした。そこで今回は、計画段階から官民境界をこえた活用、施設間の連携がスムーズに進められるように、事業者を集めたワークショップを行うことで、まち全体として彩り豊かで、利用者にとって使いやすい駅前空間を実現するスキームを検討しています。

JR × アトレ × 野村不動産 × 板橋区



図 28 | 事業者ワークショップの様子 (R6 板橋口地区)



図 27 | これまでの板橋駅西口周辺エリアのまちづくりをめぐる議論の経緯

大京 × 三井不動産 × 三菱地所 × 安田不動産 × 板橋区



図 29 | 事業者ワークショップの様子 (R7 西口地区)

再開発と地域との連携

工事中から完成後までを見据えた連携の進め方

令和6~7年にかけて、板橋口地区・西口地区それぞれの事業者と、「まちのために、連携してできること」を話し合ってきました。あわせて、区民のみなさんと、駅前広場や西口周辺エリアで「どんな活動ができればいいか」を一緒に考え、意見を交わしてきました。

複数回のワークショップを通して見えてきたテーマは、「維持管理」「地域連携」「情報発信」「防災・防犯」の4つです。これらを、【STEP1】工事中からできること／【STEP2】完成に向けてできること／【STEP3】完成後に続けていくことの3段階に整理したものが、下の図です。「清掃活動」や「みどりを育てる活動」、「パトロール」、そして「仮囲いを使った情報発信」などは、まず小さく始め、少しずつ活動を重ねながら、必要に応じて体制（つながりや役割分担）を整えていく予定です。令和11年のまちびらきを見据え、その後も活動が続き、広がっていくように、再開発と地域が連携したまちづくりにつなげていきます。

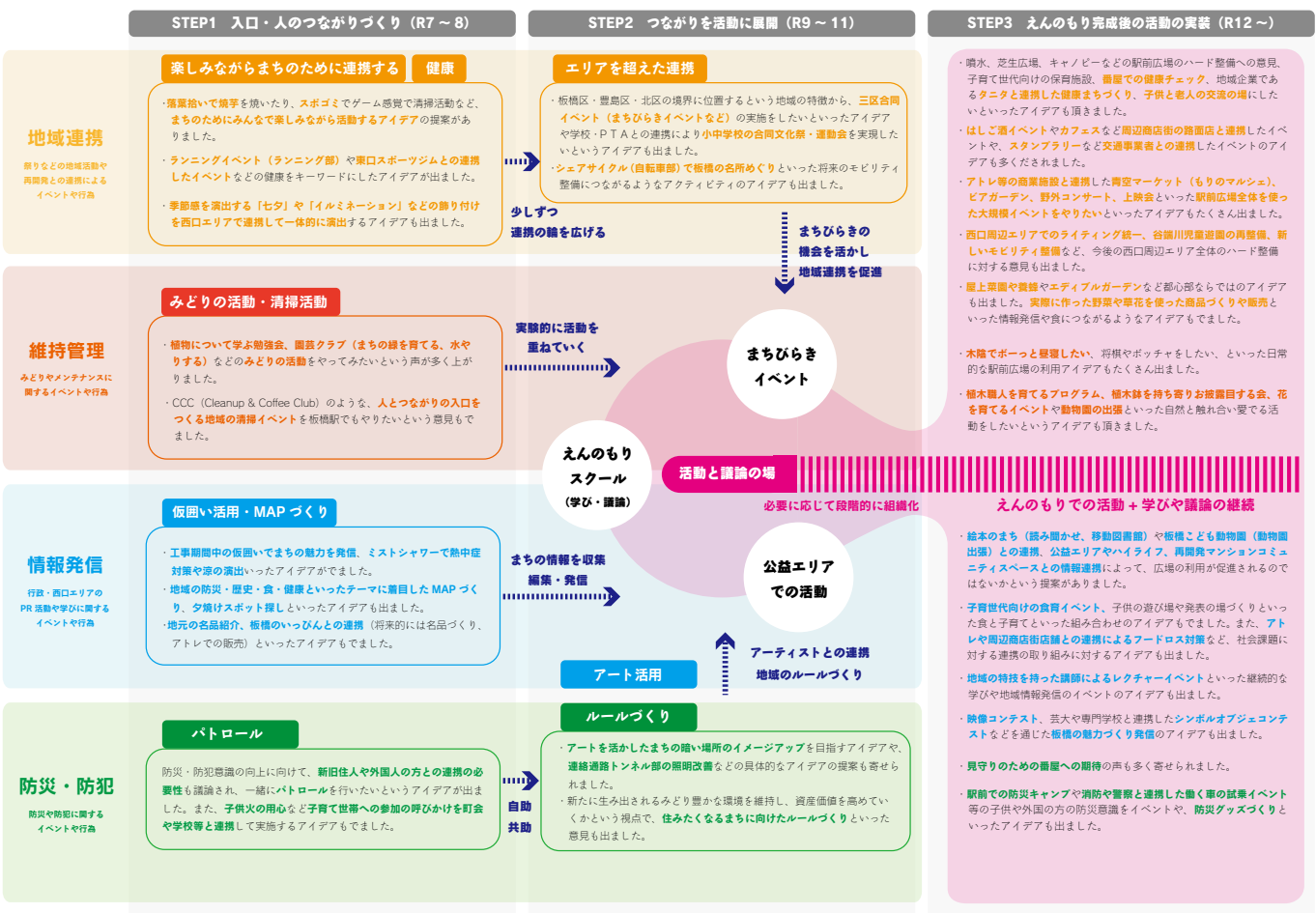


図 30 | 板橋口地区・西口地区との事業者ワークショップの結果と区民向け「えんのもり」使い方ワークショップの結果をまとめた活動連携プロセス

今後の整備スケジュール

令和9年の完成に向けて、令和7年以降も引き続き、設計・工事発注・監理を進めていきます。並行して運営にむけた準備、西口駅前広場の詳細設計と連携しながら、「えんのもり」の運用・維持管理の検討も深化させていきます。

図 31 | 今後のスケジュール

	2025 (令和7)	2026 (令和8)	2027 (令和9)	2028 (令和10)	2029 (令和11)	2030 (令和12)
板橋口地区再開発事業	R4.12~ 工事着手 建築本体工事			住宅引き渡し 商業施設開業		
公益エリア	設計	工事		開設		
西口地区再開発事業		解体工事		工事		開設
西口駅前広場再整備	整備計画	設計		工事		整備完了



発行 | 板橋区 政策経営部 創造都市デザイン課

発行日 | 令和8年4月

電話 | 3579-2515

刊行物番号

R08-09